

第 7 回 茨城県移動性・安全性向上委員会 議事要旨(案)

開催日時：平成 24 年 12 月 20 日(木) 10：00～12：00

開催会場：常陸河川国道事務所 2 階 会議室 F・G

<議事等>

1. 前回議事確認

若草大橋無料化社会実験について

2. 移動性関係議題について

2-1 本取り組みの概要

2-2 パブリックコメントの実施概要

2-3 パブリックコメントに基づく主要渋滞箇所の追加

2-4 今後の検討の流れ

3. 新たな事故危険区間の進捗状況について



(委員会の様子)

<主な意見>

1. 前回議事確認 若草大橋無料化社会実験について

委員長

○ 社会実験後に H 2 2 センサスの調査を実施していることから、無料化実験後、若草大橋の交通量の変化を検証してほしい。

事務局

→若草大橋の交通量は H 2 2 センサスや道路公社のデータ等を確認する。

2. 移動性関係議題について

委員長

○高速道路の主要渋滞箇所である、圏央道（つくば JCT～つくば牛久 IC）は、混雑度で選ばれているが、実感と異なる。2 車線分の交通容量で算出していると思うが、（実質的には 4 車線で）実際の交通容量と違うのではないかと。

ネクスコ東

→ご指摘いただいた区間は、約 14000 台/日と県内の圏央道の IC 間でもっとも交通量が多い。なお、つくば JCT のところで案内標示がわかりにくいというお客様のご意見もあったことから、震災復旧工事の際に路面標示を変更する対策を実施した。今後は渋滞状況を含め、経過観察としていきたい。

局

→高速道路の主要渋滞箇所は、全国一律の基準で抽出し、当該区間は、2 車線の交通容量で算出した混雑度で該当している。また、パブリックコメントで渋滞していると感じる区間として当該区間で 13 件の意見があることは無視できない。このことから、主要渋滞箇所として位置づけた上で、本委員会のご意見を上部機関に伝えさせていただく。

(次頁に続く)

委員長

- プローブデータの使用にあたっては、震災や復旧復興支援の高速無料化の影響も考慮する必要がある。

事務局

→データの特性を踏まえて対策方針を検討していく。

常陽

- 特定シーズンの渋滞（海水浴シーズンの大洗、ロックインジャパンフェスティバルの開催時期の常陸那珂有料道路など）はその地域にとって死活問題である。このような問題は、渋滞箇所のオプション箇所として整理する必要があるのではないか。
また、今後の渋滞対策方針では、道路に着目した対策方針に見えるが、水戸や日立を今回エリアとして選定しているのであれば、バスなど公共交通も大事。バス事業者と連携した対策などソフト対策もあわせて検討してもらいたい。

県観光

- 観光の観点では、筑波山や笠間の陶炎祭などで特定期に瞬間的な渋滞が起きている。このような渋滞に関しても、ソフト対策に頼らざるを得ないのではないか。

事務局

→水戸都市圏や日立都市圏などはバスの定時性の観点は重要と考えている。関係者の意見を伺いながらソフト対策を含めた対策を検討していきたい。

県警

- 交通管理者の視点では、県内で特に渋滞の激しい箇所は、朝夕を除くと数箇所である。すべて信号現示改良による対応は難しい。

事務局

→今回、民間プローブデータによる速度低下と道路利用者の意見で箇所を抽出している。具体の対策方針は関係機関と今後調整しながら検討していく。

- 主要渋滞箇所の特定について事務局案どおり了承された。

3. 安全性関係議題について

委員長

- 今回対象箇所の対策前後の交通事故件数は減少しているが、箇所によっては年平均 10 件以上発生している交差点もある。このような箇所は経過観察ではなく、追加対策が必要なのではないか。

事務局

→次回委員会までに検討する。

4. 今後の予定について

事務局

- 次回は、来年 2 月下旬をめどに、委員会を開催する予定である。

以 上